

## 白の季節

中国山脈の麓で、大学に入るまで生活をした。四季折々の風景が目に焼きついている。今から思えば、このような環境の下で成長できたことは本当に幸運であり、原風景としていつまでも心に残っている。この原風景に出会うために年に春、秋を主にして思い出巡りのドライブに出かける。このドライブの大きな味方は軽自動車のパジェロ・ミニである。私は趣味の写真で心が和む風景や生活が滲んだスナップを撮影する。山中で細い道があると普通車であれば躊躇するが、ミニであればちょっと行ってみようかという気になる。そして思いがけない宝物を発見することが多々ある。

幼少時の 12 月～翌年 3 月末までは雪との共存の毎日であった。炬燵に入り、雪見障子を通して降る雪を眺めるのに、飽きることがなかった。雪の夜は深々と降る雪の音を聞いたような思い出がある。その当時、住んでいた官舎は現在、町の宿屋として観光に寄与している。

人生において間違えられることはたくさんある。往々にしてその際は少しばかり不愉快な気分させられることが多い。最近、経験した最初の例は、数年前に秋の紅葉を求めて、前述の冬には雪深い里になる所へ行った時のことである。目にも鮮やかな紅葉に立ち止まり時には涙することがある。歳をとると本当に涙もろくなってしまう。小さい頃を思い出し写真を撮る。感傷的な気分にひとりながら、愛車の運転席に座って帰宅のため

飄

々

広報委員

渡邊 恵幸

にエンジンをかけた。すると、下の方から島根県警のミニパトカーがやってきた。愛車の傍に止まり、中から二人の警官が降りてきた。上から目線で「少し、質問をさせてもらってよいでしょうか」と言われた。「なんででしょうか」と問い返す。「実は、この地区の住民から警察に電話がありましてね。山口ナンバーの軽自動車に乗った男がわさびを盗っているというのです」。つまるところ、わさび泥棒に間違えられたのである。免許証の確認後に車内を猟犬のように隅々まで観察された。しかし、わさびなど出てくるはずがない。「こちらには何をしに来られたのですか?」「ここは、私が 5 歳まで住んだ所で、故郷巡りです」。このようなやり取りが続いた後に「あとで、免許証の確認をさせてもらっていいですか」の言葉を残してパトカーは上に向かって行った。せつかく、心地よい思い出にふけていたのが台無しであった。思わず、そんなに身元を確認したいなら県知事に問い合わせ御覧なさい。彼なら私を高校の同級生と即答してくれるはずだ。そう思いながらも権力を笠に着るのは自分の品性を（そう大したものではないが）おとしめるようで、そんな事はすべきでないという考えが勝ち、何も言わずに帰路に就いた。しかし嫌なことはあったが故郷は私の心を癒してくれた。その後、県警からは何の音沙汰もない。

間違えられた二例目は今年 2 月 11 日（土）に小学校・中学校の同窓会が島根県の益田市で開催された。当日は徳佐と津和野は大雪であった。幹

線道路は除雪されていたが道路以外は積雪で白の世界であった。スタッドレスタイヤを履いた愛車パジェロ・ミニは滑ることなく目的の旅館に到着した。指定された場所に車を止め長靴で降りた所、女将さんらしき人から、私の貧相な長靴姿を見てか、はたまた山口ナンバーの軽自動車を見てか「徳佐からですか」とのたまった。徳佐＝雪国・田舎のニュアンスを感じた。私のひがみっぽい性格があるのだろうが、すぐに「山口市からです」と答えてしまった。徳佐は言うまでもなく山口市である。徳佐は緑豊かな自然と素朴な人達が多く私の大好きな撮影地区である。女将さんが「雪の中を大変でしたね。遠方から来てくださり誠にありがとうございます。徳佐からですか」と聞かれたら「ありがとうございます。お世話になります。山口からやって来ました」と答えただろう。

ちょっとした言葉の心遣いは相互関係を円滑にしてくれる。このことはどの社会でも同じことである。私達の職場では接遇の問題として重要視される。うわべだけの言葉、心のこもっていない同情や思いやりからは何も伝わらない。相手を思いやり、心からの同情で紡ぐ言葉には暖炉の暖かさのように、じわじわと身体の中にしみ込んでくる。

私は冒頭でも述べたが、四季折々の美しさに触れて成長した。本当に幸せである。どの季節も素晴らしい。冬は白一面、銀世界の季節である。雪はまたあらゆる物を覆い隠す。雪の白さは心を浄化させる力を持っていると思う。それゆえ、雪を眺めるといつしか心が清々しく穏かになるのだと思う。しかし、雪は大変に辛い季節でもある。その辛さに耐えることができるのは、その先に暖かく、穏やかな春が待っているからである。

昭和 36 年に佐久間良子、水木 襄 主演の「故郷は緑なりき」という東映映画があった。故 富島健夫 氏の「雪の記憶」の映画化であった。雪の季節になるとこの映画を思い出す。

私にとって「わが故郷は・・・」である。山を真っ白に変えてしまう雪を見ると神々しく思わず手を合わせてしまう。まさしく敬虔な祈りの風景である。

今、季節は新緑の美しい初夏へ変わろうとしている。生命の輝く季節でもある。

## 表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会広報・情報課

E-mail : [kaihou@yamaguchi.med.or.jp](mailto:kaihou@yamaguchi.med.or.jp)